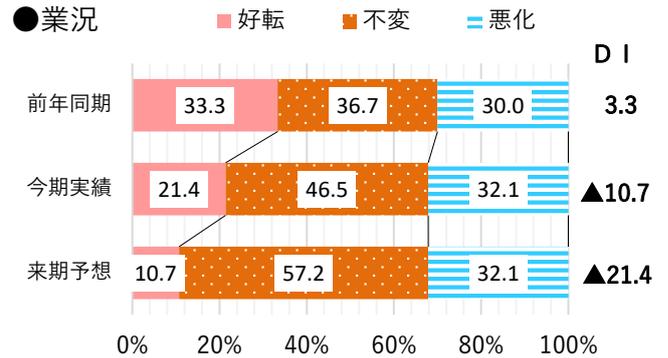


# 製造業

## 業況、売上、採算

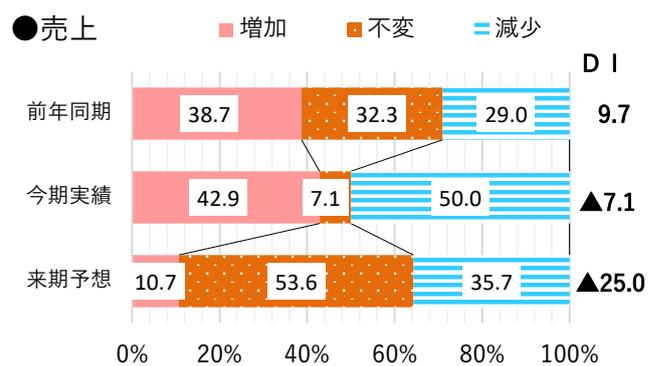
今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲10.7で、前年同期（2024.10～12）と比べ14.0ポイント低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ10.7ポイント低下すると予想しています。



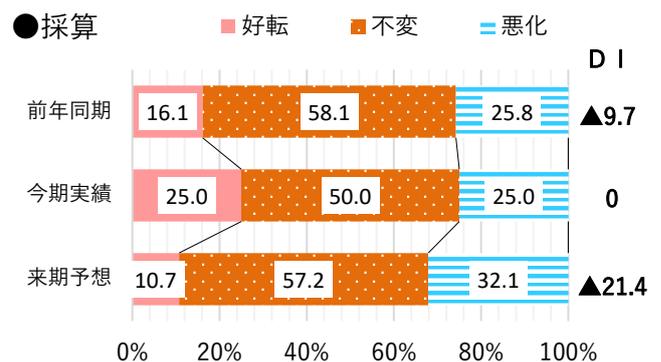
今期の売上DIは▲7.1で、前年同期と比べ16.8ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ17.9ポイント低下すると予想しています。

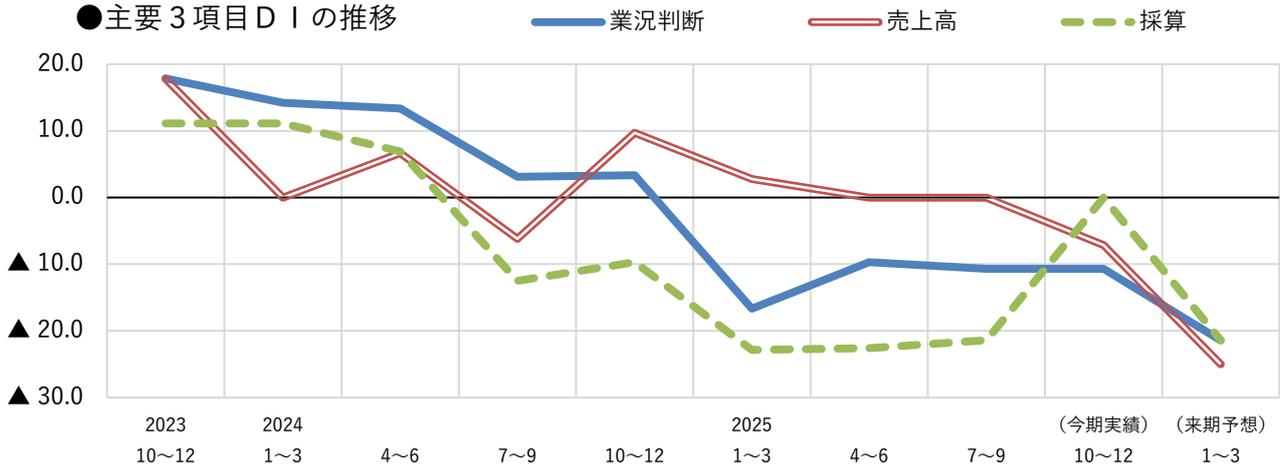


今期の採算DIは0で、前年同期と比べ9.7ポイント上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ21.4ポイント低下すると予想しています。



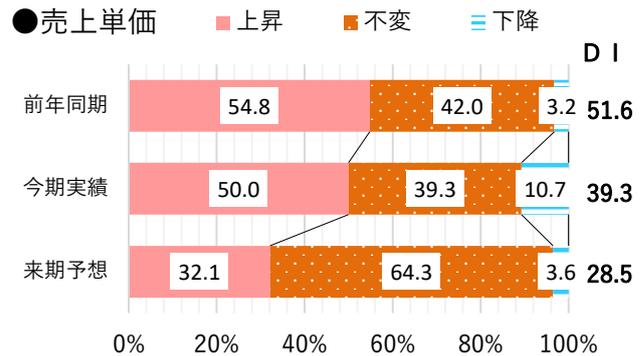
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

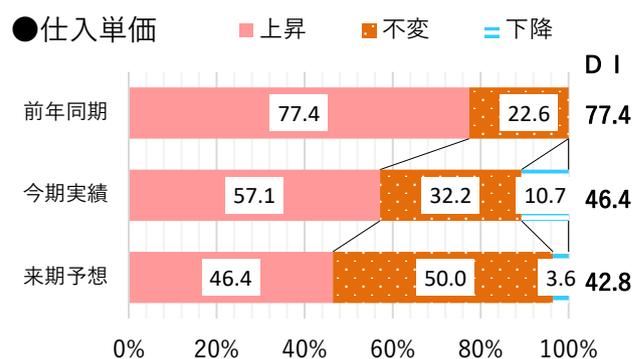
今期の売上単価DIは39.3で、前年同期と比べ12.3ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ10.8ポイント低下すると予想しています。



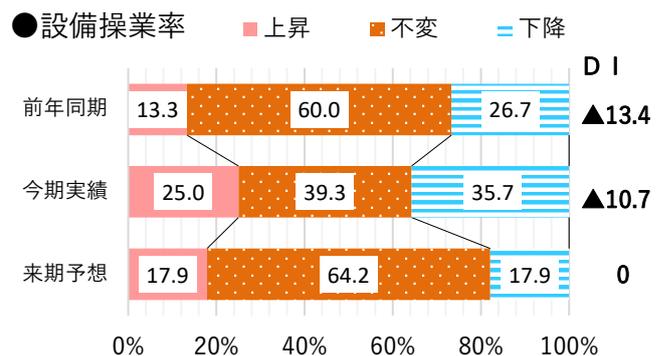
今期の仕入単価DIは46.4で、前年同期と比べ31.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ3.6ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲10.7で、前年同期と比べ2.7ポイント上昇しました。

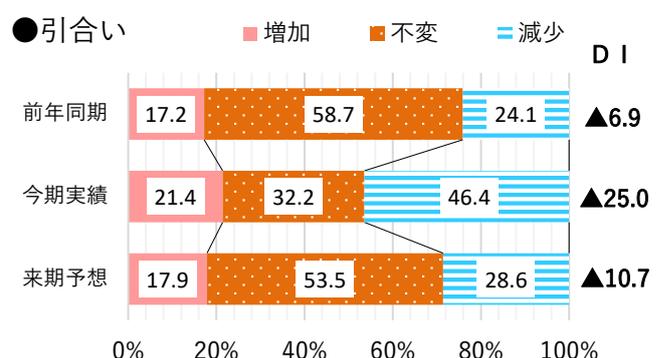
来期の設備操業率DIは今期と比べ10.7ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲25.0で、前年同期と比べ18.1ポイント低下しました。

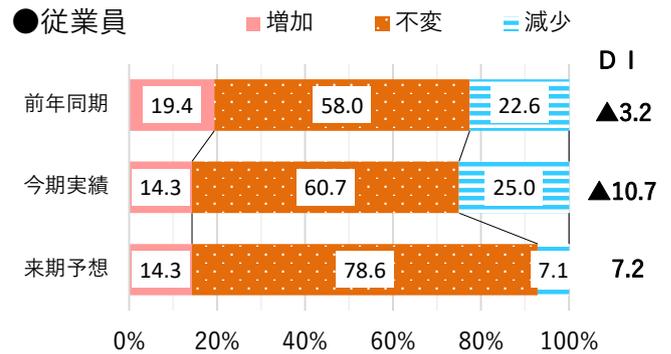
来期の引合いDIは今期と比べ14.3ポイント上昇すると予想しています。



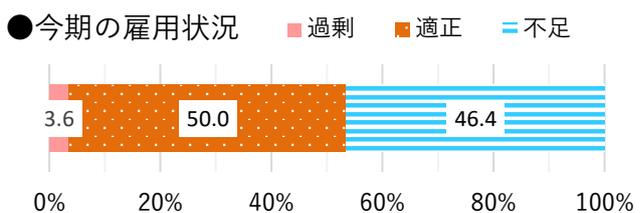
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.7で、前年同期と比べ7.5ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ17.9ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は3.6%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、39.3%を占めました。

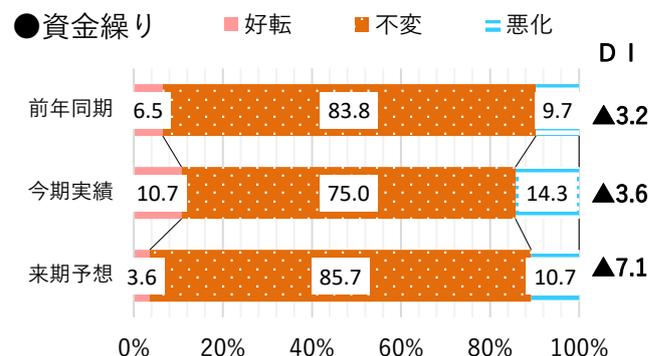
従業員数変化	雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	7.1%
不変だった	過剰	0%
	適正	39.3%
	不足	21.4%
減少した	過剰	3.6%
	適正	3.6%
	不足	17.9%

回答総数28社

資金繰り、設備投資

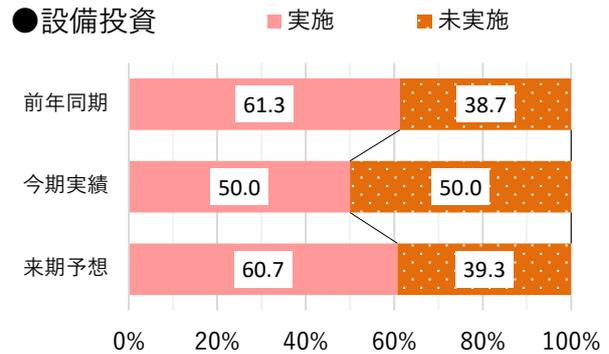
今期の資金繰りDIは▲3.6で、前年同期と比べ0.4ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ3.5ポイント低下すると予想しています。



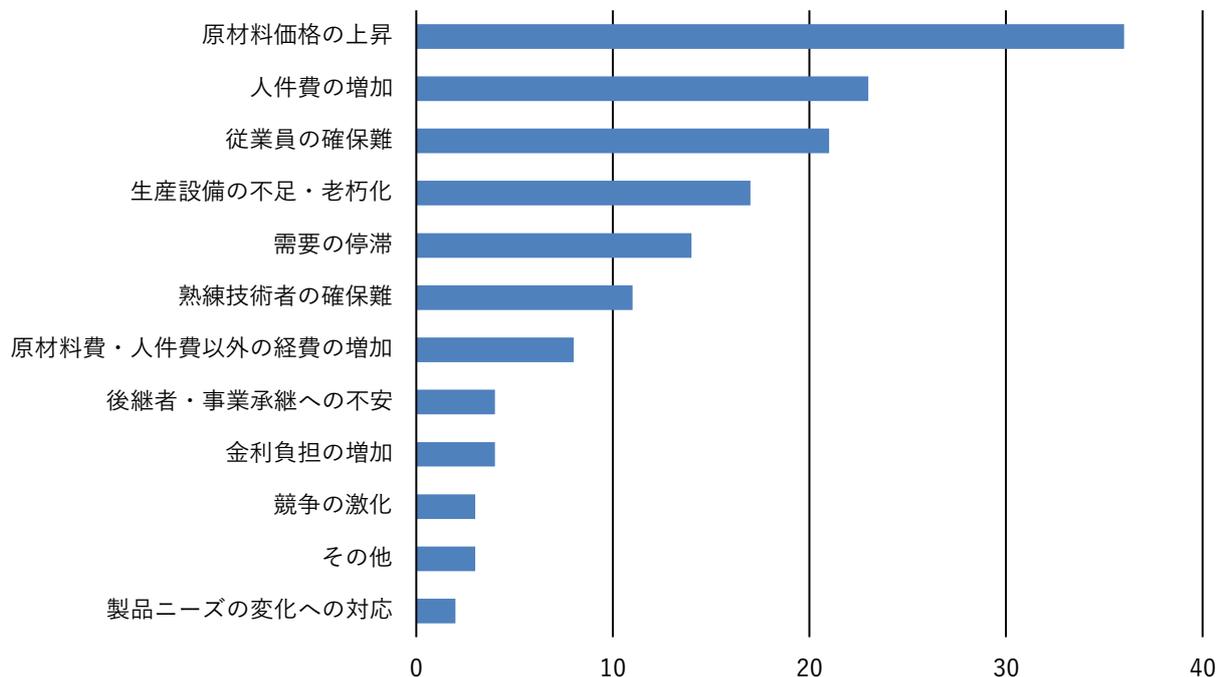
今期の設備投資は50.0%が実施と回答し、前年同期と比べ11.3%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」でした。

来期は60.7%が設備投資を計画していると回答しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 年末商材の価格競争による売上減少、仕入価格の上昇、最低賃金の上昇、その他諸経費の上昇により業況が悪化した。(食料品)
- 海外からの輸入原料の入荷遅れの影響を受け、必要な時期に十分な出荷が出来なかったため売上が減少した。(食料品)
- 原料単価が上昇したが、受注も増えたので売上が増加した。ただ、人材は不足している。(食料品)
- 仕入価格は上昇、売上額は4%減少し、従業員が1名不足している。(食料品)
- 値上げにより収益率は改善したが、売上は減少した。(食料品)
- 商品の全体的な値上げを実施した。(食料品)
- 大幅に遅れていた大型プロジェクトが徐々に動き出したことから、若干薄日が差してきた。原材料

価格は落ち着いた状況が続いている。(金属製品)

- メーカーが価格を下げたので売上が減少した。人材は募集をしているが応募が無い。(金属製品)
- 廃業などの同業他社の減少のため業況が好転した。(金属製品)
- 求人募集をしているが、面接段階にも至らない。(金属製品)
- 仕入価格に関してはユーロ高が大きく影響している。(飲料)
- 第一次産業分野の取引が大半のプラスチック製品製造を行っており、11月から前年同期比、前月比で明らかに引き合いが減少した。中でも、農業関係では玉ねぎとジャガイモの不作、水産関係はホタテと秋鮭の不漁が影響している。仕入価格は常に円安の影響が大きい。従業員は会社を運営する最低限の人数の確保はできており、最低賃金改訂の発表があれば外部流出阻止の目的で、速やかに賃上げ実施している。(プラスチック)
- ジャガイモ、玉ねぎの不作、鮭の不漁により売上数量が例年と比べ大きく減少。特に道東地区の売上減少が大きい。また、物価高による買い控えで売上減少も続いている。(プラスチック)
- 販売価格は上昇したが、出荷量の減少により売上はほぼ横ばいとなり、工場の稼働率の低下と人員確保難が続く。(プラスチック)
- 材料仕入単価の一部が上昇し、生産量、販売量共に下降したため今期は業況が悪化した。(紙製品)
- 売上は増加したが、仕入価格や経費も増加し収支は微増となった。(紙製品)
- 防衛省被服類の発注数量の増加が業況の好転につながっている。(衣服)
- 今期は前年に比べて売上、利益が上昇したが費用も増加した。また、これまで外注していた委託工場の社員化とそれに伴う10月からの賃上げで、費用がさらに増加した。(ゴム製品)

## [来期の業況について]

- 円安による仕入価格の上昇、嗜好品の買い控え等により先行き不透明な部分が大きく、悪化の傾向がどこまで続くのか見通しが立たない。(食料品)
- 5月以降に値上げを実施し、前年並の売上になる予定である。また、1~2名の人材確保を行う。  
(食料品)
- 9月から年末までが販売時期なので、売上は減少する。(食料品)
- 売上が減少したままだと来期も厳しい。(食料品)
- 前期と同等に推移すると予想している。(食料品)
- 冬期のアイス需要に左右される。(食料品)
- 大型プロジェクトの本格稼働と原材料価格の落ち着いた推移を予想する。(金属製品)
- 廃業などの同業他社の減少のため業況が好転すると考える。(金属製品)
- 来期も継続して求人募集をする。(金属製品)
- 来期のユーロは高止まりと予測する。(飲料)
- 来期について今期と変化があるとすれば売上額部分のみである。例年1-3月は弊社にとって不要期で、12月の引合い状況を見る限り楽観視できないのが実情で前期から数%悪化すると予想する。  
(プラスチック)
- 農産品、水産品の収穫量減少により、小規模食品加工会社は原料調達に苦慮することが考えられる。これに物価高も重なり、今期より厳しさが増すと思われる。(プラスチック)
- 人件費の上昇や光熱費の増加など、運送コストの上昇を販売価格に転嫁したい。(プラスチック)
- 材料仕入価格が今期に続き上昇すると予想している。(紙製品)
- 費用の増加が想定される。(紙製品)
- 引き続き防衛省被服類の発注増量に期待しているがまだ不透明である。(衣服)
- 受注数の減少や最低賃金、仕入価格の上昇などが見込まれる。(その他繊維製品)